ロジスティクス研究会
ファックス通信
題字 浅井時郎東ト協名誉会長
インターネット・ホームページ
URL http//www.totokyo.or.jp/
e-mail：sounenbu@tta.ne.jp

ひびき

～安全と安心の共創～

（社）東京都トラック協会
編集人　大淵隆次
東京都新宿区四谷３丁目１番８号
ＴＥＬ.０３－３３５９－４１３７
ＦＡＸ.０３－３３５９－６０２０

２００８年４月３０日発行　４月号　No．１５９

※※

◇巻頭言　本部長　竹内　政司〔多摩支部　竹内運輸工業㈱〕

【クレディビリティ】

近年、社会は企業に対してコンプリアンス（ＣＯＭＰＬＩＡＮＣＥ＝法令遵守）の経営を厳しく要求し、企業も社会の中で生き残るために、コーポレートガバナンス（ＣＯＲＰＯＲＡＴＥ ＧＯＶＥＲＮＡＮＣＥ＝企業統治）の仕組みや不正行為を防止する機能を重視するようになってきた。そこで重要となるのは制度や仕組みそのものよりも、それを運用する人の心だと考える。

心というと漠然としているが、皆さんはクレディビリティ（ＣＲＥＤＩＢＩＬＩＴＹ）という言葉をご存知ですか？。この聞きなれない言葉を調べてみると、クレジット（ＣＲＥＤＩＴ＝信用）からきていて、「信義に厚い」とか「信頼に足る」という意味だそうだ。つまり信用できること、相手を裏切らない、嘘をつかない、卑怯なことをしないということである。

企業で働く全ての人に必要なのは、クレディビリティという言葉で表現される人としてのあり方だと思う。経営トップからはじまって、働く一人ひとりにこのクレディビリティがない企業は、「社会に存在する価値がない」と判断され、非難を浴び、信頼を失い、ついには不買運動などにより社会から抹殺されてしまう。企業の中に「いいやこの程度なら」、というクレディビリティに欠けた行動が許容される風土が充満してしまうと、食品偽装を起こしたあまたの会社のようになり、あるいはたとえ「個人的行為」と会社側は説明するが、今回の野村證券のようになってしまう。

今、企業やそこに働く人が社会に問われているのは約束やルールを守る真面目さ、正しい事を行う「誠実さ」、そして「思いやりの精神」ではないだろうか。このことは昔からいわれている商道徳である。商売は働く全ての人が「仁（他人を思いやる心)」、「義（人としての正しい心)」、「礼（相手を敬う心)」、「智（知恵を商品に生かす心)」という４つの心を備えていれば、お客様の「信（信用･信頼)」を得ることができ、お店はますます繁盛するというものだ。

しかし私たちは自分の心の中に、良心という自分と、エゴイスティックな自分が同居している。何かミスを起こしてしまったときには、「この程度なら良いだろう」と、エゴという自分が顔を出し、小さな甘えが起こり、自分の保身を考え、そのことを隠蔽しようとする意識が働きやすい。ところがそのことが大きな不正につながってしまうケースが目につく。また小さな事でも嘘をつくとそれを隠すためにまた嘘をつき、どんどん問題が大きくなってしまう事がある。

何か失敗した時や問題を起こした時こそ、このクレディビリティという言葉を思い出したいものだ。誠実な対応、誠意ある行動が必ず起こった問題を解決に導いてくれるはずであり、働く全ての人たちのクレディビリティが高ければ高いほど、その企業の信頼性も高くなることを忘れてはならない。

◇ロジ研壮年部長随想リレー

【 桜 】　板橋支部壮年部長　篠﨑　眞〔㈱興真運送〕

私の住んでいる板橋に石神井川が流れている。「板橋」の地名の由来は、この川に架けられた「板の橋」からと言われている。私が幼少の頃この川は、豪雨や台風が来ると氾濫し、周囲は浸水し、汚いドブ川だった。しかし、ここ最近は、大変緑豊かな藻が育つ美しい水の流れに生まれ変わり、魚が泳ぐ川となった。

今年の桜満開の時は、大変な賑わいであった。「加賀公園」から「帝京高校」、「旧中山道」、「中仙道」、「中根橋」、「中板橋」まで川岸を歩いてお花見が出来る「石神井川お花見ロード」がある。この石神井川遊歩道は、交通量の多い中山道（国道１７号）で分断されて迂回していたが、最近横断歩道が完成し、連結され、凄いことである。

「お花見」をしたのはここ数年無かった事であり、ましてお酒抜きの「花見」である。歩いて「石神井川お花見ロード」の桜を見て回り、各場所の川の風景に桜は、綺麗に明るく咲いている、そして水面をゆく花筏の流れの美しさ。今迄は、仕事が忙しかったせいか花見をする余裕すらなかったが、これからは毎年この季節を楽しみたいと思っています。

日本は、「春･夏･秋･冬」四季が有り、その都度色々な風情が味わえる。このすばらしさを何時までも何時までも残すためにも我々は、環境問題に取り組んでいかなければいけないと思う。

◇お知らせ《行事予定》　※次回正副の開始時間が変更になります。

◇正副本部長会議	５月２１日(水)17:30～	東ト総合会館６階
◇幹事会	５月２１日(水)18:30～	東ト総合会館６階
◇正副本部長会議	６月１０日(火)14:00～	東ト総合会館６階
◇総会	６月１０日(火)16:00～	東ト総合会館７階

《百文字のひろば》　城東支部壮年部長　西野　毅〔㈱ 誠 和〕

この原稿の依頼 FAX を受取った少し後、私の友人で江戸川区の同業者からよくテレビに出演している「民主党国会議員」の懇談会案内が送られてきました。

翌日、その友人から電話があり「他にも声を掛けたのだけど以外に皆興味が無いんだよ！」「あまり人数が集まらないと俺も立場ないし」っと愚痴っている。理由はと尋ねると、大半が以前にこの様な場に参加したけれど、打っても響かない！意味が無い！票集めのパフォーマンス！との感想、また中小零細の運送業者で平日の４時から永田町に行ける人も少ないんじゃない！と私は答えた。

当日、予定の半数も人が集まらなくとも、この状況が我々のメッセージですと正直に伝えることに決めました。

さて、この先生がどんなリアクションをするか個人的には楽しみに会って来ます。これが配布される頃には運送業界の将来を分ける山口県２区の選挙結果も出ている事でしょう。

この懇談会の内容について、つぎに機会が有れば本誌で報告いたします。

◇東ト協ロジ研第３回オープンセミナーの報告

研修委員会副委員長 飯沢 宗光〔多摩支部　成光運輸㈱〕

本年度は、「安全と安心の共創」を年間テーマとして開催してきました。第１回セミナーでは「経営者の意識について」、第２回セミナーでは「管理体制について」、そして今回のセミナーでは、具体的な取り組みを長年現場で指導にあたられた経験を踏まえた、森田有信氏(ヤマト・スタッフ・サプライ(株) 安全教育コンサルタント)に事故防止における「ドライバーの自発的な行動について」をテーマに講演をいただきました。

まずは、安全意識の芽生えを死亡事故対応の体験から、得たものや、失ったもの、事故の重大性、そして命を守り、命の尊さの重要性についても熱く訴えておりました。企業を取り巻く環境の変化が著しいが法令遵守が基本のなかで、意識改革に努めて、運転者が現状を把握して、自らをチェックして、自らを気づかせて、自らを指摘して、理解をするように管理者が指導をする。また運転者の思い込みの行動や、管理者の都合での指示でなく、お互いを思いやる気持ちが大切であります。社内で誇りにもてる社員は何人いるのか？意見や要望はないのか？快適な職場環境なのか？安全管理・健康管理はどうなのか？さまざまな問題点を解決する努力をして、運転者と管理者が共に考える必要があります。そして共に意識改革をして周囲をあまり気にしすぎずに、迷惑にならない程度に、出来ることからまずは実践することではないでしょうか？事故防止は永遠の課題の様な気がしました。

◇東ト協ロジ研研修活動報告

研修委員長　鈴木　貢〔葛飾支部　㈲すずか梱包運輸〕

平成１９年度は当初の活動計画に従い３回のオープンセミナーと「安全フォーラムⅡ」を開催しました。また、特別企画として「ゼロからの風」上映会や海外企業視察も実施することができました。開催にあたりましては、多数の皆様のご参加をいただきましたことを研修委員長として大変ありがたく感謝いたします。

本来であれば「ひびき」の当号にフォーラム報告も掲載させていただくべきところですが、現在、昨年度と本年度の研修活動を取りまとめた報告書を作成しており、総会時に配布させていただく予定です。プレッシャーがかかりますが、期待してお待ちください。

◇「新生ロジ研・第２回ゴルフコンペ」報告

企画委員長　斉藤彰悟〔荒川支部　エスエイロジテム(株)〕

昨年には湾岸の「若洲ゴルフリンクス」において第１回目を行い、今年第２回目は名門「東京よみうりカントリークラブ」でゴルフコンペを開催致しました。昨年と同じ３月１７日（月）に、穏やかなお天気のなか、竹内政司ロジ研本部長をはじめ、女性部の原玲子本部長と、青年部の藤倉泰徳本部長他をゲストに、総勢２０名で熱戦を繰り広げました。

東京よみうりＣＣは、毎年ワールドレディスや、ゴルフ日本シリーズというプロトーナメントが開催され、今年もメジャー最終戦が行われる著名なコースです。ＴＶでも良く放映され、あの有名な１８番ショートホールもあり、とても素敵なコースです。但し、当日使用したグリーンは「高麗」ということもあり、少々残念だったという「ぼやき」も聞こえてきました・・・・・

競技は、新ペリア方式で行い、優勝は飯沢宗光さん、準優勝は藤倉泰徳さん、３位は相楽俊一郎さんという結果でした。それぞれ賞品の他に竹内本部長と、金子さよ子副会長から参加者全員に、素晴らしい参加賞も頂きました。

当日は、新日本流通新聞社の記者である多屋芳郎さんの取材もあり、大いに盛り上がりました。

暫定税率などの問題も山積しており、何かと厳しい企業運営の中ではありますが、楽しく、そして為になるロジ研を目指して参りますので、これからも宜しくご参加下さいますようにお願い致します。